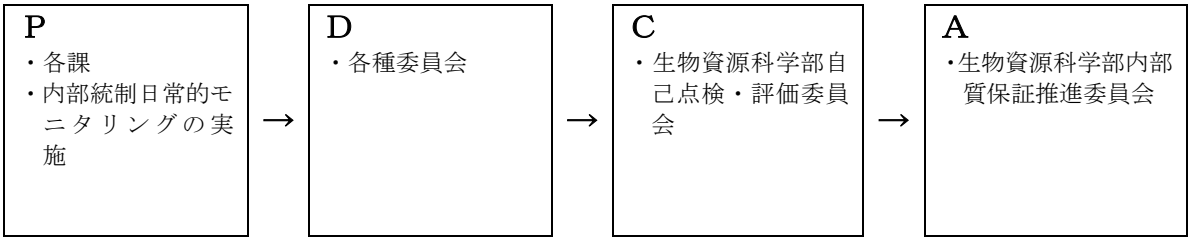
令和７年度全学自己点検・評価報告書

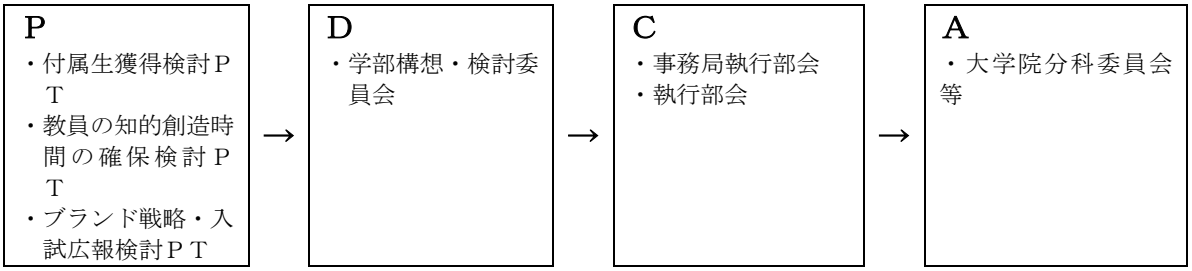
学部等名　　大学院生物資源科学研究科

基準２ 内部質保証

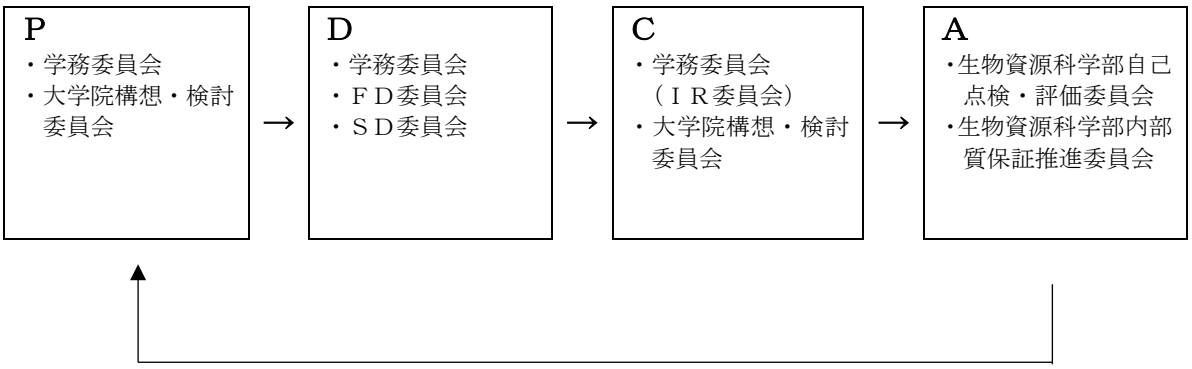
１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。

【庶務】





【教務】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。

＜評価の視点＞

・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等につ

いて記述してください。

【庶務】

点検・評価については，生物資源科学部内部質保証推進委員会の下，ＩＲ委員会，ＦＤ委員会，ＳＤ委員会及び生物資源科学部自己点検・評価委員会等が生物資源科学部内部質保証推進委員会と連携することで，各研修でのテーマを提供する等して内部質保証体制を構築している。

改善・向上を図った事例としては，内部統制の日常的モニタリング「推進単位内項目／全課共通項目（教務課）」にもあるとおり，教育の質を保証する仕組みの一環であるＦＤ研修において毎年講演内容を変更することで全教職員の 100%受講を達成した。

内部質保証については，現状，各課のＰＤＣＡサイクルに全体的な統一性が見られないことから，内部質保証体制をより盤石なものとするため，各課及び各種委員会等の役割及びＰＤＣＡサイクルの本質を再検証しながら，課題となる点を抽出し，生物資源科学部内部質保証推進委員会において今後検討及び改善していく予定である。

【教務】

＜点検・評価（検討・検証）＞

内部質保証システムは，生物資源科学部内部質保証推進委員会の下，学務委員会等が密接に連携し，体制を構築している。本研究科では，実務を担う委員会と評価組織の役割を明確に分担している。

具体的な運用プロセスとしては，まず学務委員会及び大学院構想・検討委員会において，研究科の教育方針や改善計画を策定（Ｐ）する。これに基づき，学務委員会が必要に応じてＦＤ・ＳＤ委員会等と連携して施策を実施（Ｄ）する。その後，学務委員会や大学院構想・検討委員会が，教学データを用いて点検・検証（Ｃ）を行い，必要に応じてＩＲ委員会と連携し，結果を補完する。これらの検証結果は，生物資源科学部自己点検・評価委員会による評価を経て，最終的に生物資源科学部内部質保証推進委員会へ報告・承認（Ａ）することで，組織的な質保証サイクルを完結させている。

＜改善・向上を図った事例＞

大学院教育の活性化を目的として，大学院構想・検討委員会での起案に基づき，学部教育と大学院教育を接続する「早期履修制度」を導入した。本制度の導入に際しては，同委員会が現状分析と制度設計（Ｐ）を行い，学務委員会での審議（Ｃ）を経て，組織的な運用体制を構築した。この組織間連携により，優秀な内部学生の早期確保及び学修意欲向上に資する改善を行っている。

他にも，安全配慮の観点から庶務課が起点となり，夜間の施設利用申請（午後９時以降）の仕組みを導入した。学務委員会においても，本運用が研究活動を支援するものであるとの認識を継承し，組織運営を行っている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

令和６年度大学評価（認証評価）結果において，博士後期課程では，専攻ごとの学位授与方針が未設定であり，また，授与する学位ごとに教育課程の編成・実施方針を設定していないとの提言が付されている。このことは，教育課程の体系性や学位授与の適切性を検証する上で重要な課題である。したがって，内部質保証体制を機能させ，研究科内の委員会が主導し，博士

後期課程の専攻ごとの学位授与方針を早急に策定するとともに，授与する学位ごとに教育課程の編成・実施方針を設定するよう，改善が求められる。

【教務】

本研究科に付された改善課題（博士後期課程の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）・教育課程の実施・編成方針（カリキュラム・ポリシー）に関するもの）に対し，以下のとおり取り組む。当該課題は，全研究科で授与可能な「博士（学術）」の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）が明確に記載されていなかったことに起因する。

まずは，「博士（学術）」の運用方針について，本部学務課と連携して検討する。全学的な取扱いが令和８年度中に決定される見込みであることを踏まえ，本研究科における学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の改正による改善達成時期を令和９年度中とする。

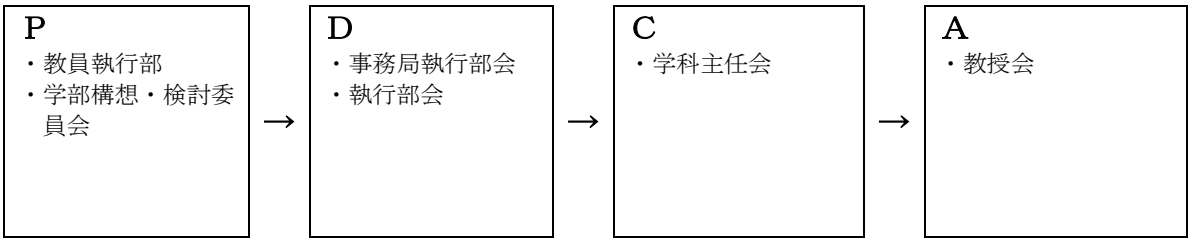
本課題の解決に向けた組織的な取組については，まず，大学院構想・検討委員会が主体となり，全学的な「博士（学術）」の運用方針との整合性を図りつつ，本研究科の各専攻における学位授与要件の再定義を起案（Ｐ）する。この起案に基づき，学務委員会において学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）・教育課程の実施・編成方針（カリキュラム・ポリシー）の素案を各専攻の教育実態に即して検証（Ｄ）し，全学方針の決定後に速やかに方針を確定させ，大学院要覧等の公表媒体へ反映させる。

運用開始後は，主に学務委員会及び大学院構想・検討委員会において，新方針が提言の趣旨に沿ったものとなっているか，また学位授与の適切性を検証する基準として有効に機能しているかを点検（Ｃ）する。これら一連の策定プロセス及び点検結果は，生物資源科学部自己点検・評価委員会を経て，最終的に生物資源科学部内部質保証推進委員会へ報告（Ａ）し，執行部による組織的な承認を得ることで，研究科全体での内部質保証を完結させる。

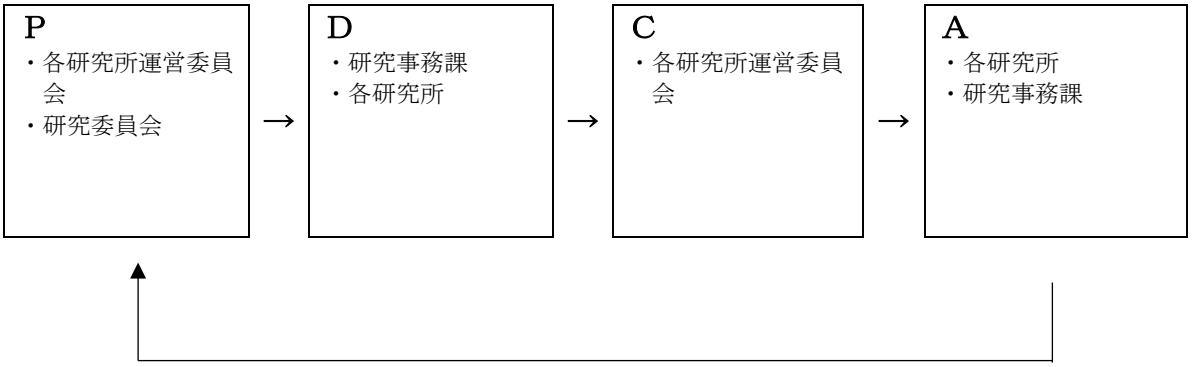
基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【庶務】



【研究事務】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

【庶務】

教育組織については，大学院設置基準やＳＴ比の標準化を踏まえた上で，教員執行部及び学部構想・検討委員会が中心となり，学部の今後のカリキュラム編成や組織再編に向けてのプロセスを検討している。

【研究事務】

各研究所等では，学部研究委員会を中心として研究組織の適切性を検証するとともに，日々の業務については各研究所等の運営委員会で点検・検証に取り組んでいる。 各研究所等の運営

委員会による点検・検証の結果を基に大型機器の購入，保守，点検及び修繕等の計画を検討している。総合研究所では，機器のニーズや点検結果等を基に，毎年大型機器の更新・導入に係るロードマップ（中期計画）を見直し，研究所運営委員会及び研究委員会の承認を得て予算化し，研究環境の改善を行っている。

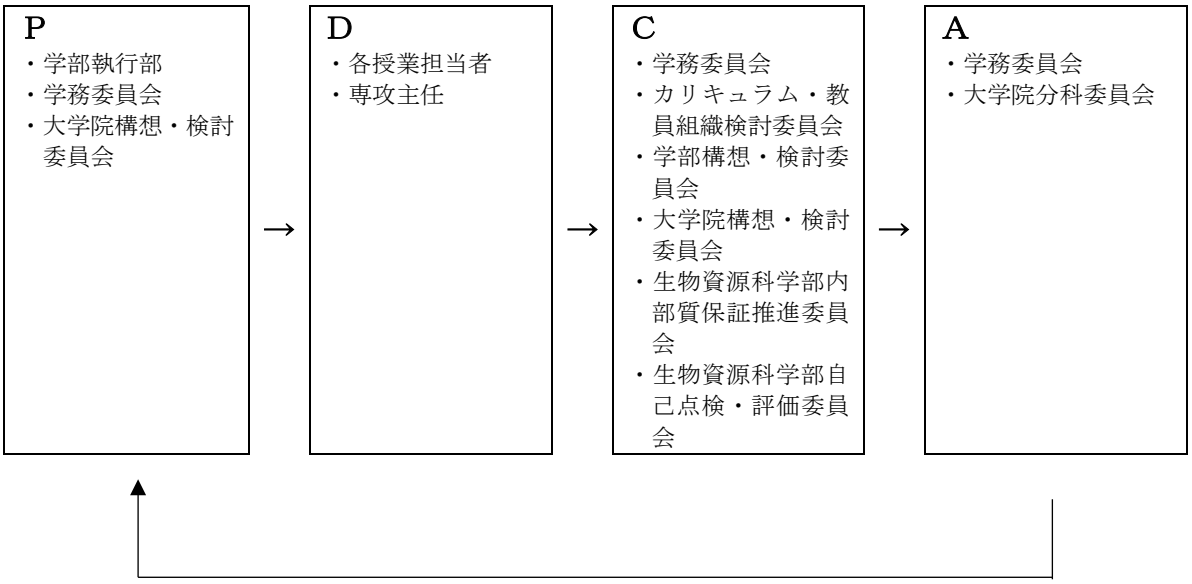
3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【教務】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

㊶　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

【教務】

＜基準・周期＞

教育方法については，毎年度実施する。教育課程については，平成 12 年度からカリキュラムの骨子は大きく変更されずに現在に至っているが，令和９年度の獣医保健看護学専攻の新設に合わせて，大学院・構想検討委員会が中心となり，カリキュラム改正の検討に着手する。

＜体制・プロセス＞

執行部，学務委員会，カリキュラム・教員組織検討委員会，学部構想検討委員会及び大学院構想・検討委員会の各種検討委員会が中心となりＰＤＣＡを主導する。生物資源科学部内部質保証推進委員会へは，毎年の自己点検・結果等の状況報告を行うことで連関する。

＜方法＞
履修人数が小規模な科目を除き，授業評価アンケートを年２回実施し，その結果に基づき各教員が日々の授業改善に努める。
具体的な運用は，学部執行部，学務委員会，大学院構想・検討委員会による基本計画の策定（Ｐ）に基づき，各授業担当者の実践及び専攻主任による実務検討（Ｄ）を行う体制としている。実施状況については，学務委員会や大学院構想・検討委員会等の各委員会が，教学データ等を用いて多角的に点検・評価（Ｃ）を行う。その結果は，学務委員会及び大学院分科委員会での審議・承認（Ａ）を経て組織的に決定・反映される。この一連のサイクルにより，令和９年度の新専攻設置に伴う改正など，教育の質の継続的な向上を担保する。

㊸　教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

【教務】
＜活用と改善事例＞
教育方法の改善として，毎年度実施する授業評価アンケートの結果を各教員にフィードバックし，各教員が次年度の講義で改善点を反映させることで，日々の教育の質向上に活用している。また，教育課程の改善として，次期カリキュラム改正に備え，大学院構想・検討委員会等の各種検討委員会が設置されており，これまでに共有された授業アンケートデータを背景情報として，議論の創出につなげている。
組織的な改善については，教務課が取りまとめた自己点検・評価の結果（Ｃ）を，学務委員会や大学院構想・検討委員会等の関係委員会へ共有し，活用する体制を整備している。
現時点において，特筆すべき具体的な改善指摘事項はないものの，今後，自己点検において課題が抽出された際には，大学院構想・検討委員会等が主体となって改善案を策定（Ｐ）し，学務委員会及び大学院分科委員会での審議・承認（Ａ）を経て，速やかに教育課程等へ反映させる運用プロセスを確立する。なお，学務委員会や大学院構想・検討委員会等が自ら点検（Ｃ）した結果に基づき，改善を起案（Ｐ）し，上位組織の承認（Ａ）を得る質保証のルートを機能させることで，研究科独自の教育改善を継続的に推進していく。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】
令和６年度大学評価（認証評価）において，「学位授与方針について，生物資源科学研究科博士後期課程では，授与する学位ごとに設定していない。また，教育課程の編成・実施方針について，生物資源科学研究科博士後期課程では，授与する学位ごとに設定していない」と提言が付されているため，改善が求められる。

【教務】
博士後期課程の「博士（学術）」の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）等に関する課題は，全研究科で授与可能な「博士（学術）」の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）が明確でなかったことに起因する。
改善の目安としては，本部の方針決定後（令和８年度中の目途）を待って対応する方針とし，

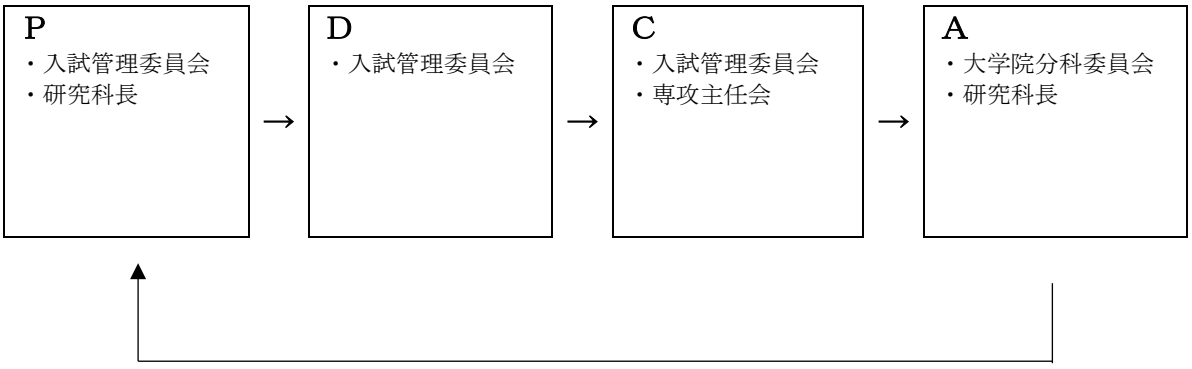
本研究科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の改正による改善達成時期を令和９年度中と想定する。

具体的方策としては，本部方針決定に備え，大学院・構想検討委員会において，提言された学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の要件と本研究科の研究領域の適合性に関する情報整理を実施し，大学院分科委員会の承認を経て大学院要覧に反映させ，改善完了とする。

基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【教務】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

㊾　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

【教務】

＜点検・評価（検証）のプロセス＞

学生の受け入れに関わる事項の検証は，入試管理委員会が主導する。委員会は，前年度の受験者数・入学者数等の動向や大手進学塾の分析結果を参照し，現状把握と入学者選抜制度の適合性を分析する。この検証結果に基づき，大学院分科委員会の審議を経て研究科長が次年度の制度改定を決定する。

＜改善・向上を図った事例＞

定員増加に向けた誘致策の一環として，大学院説明会を年２回開催し，学部生への働き掛けを強化している。今年度は特に，現役大学院生を招き，実際の研究活動や就職活動・インターンシップ等のキャリア形成事例を紹介するプレゼンテーションを実施し，大学院進学の具体的なメリットを明確化した。

＜今後の対応＞

現在の体制では，生物資源科学部内部質保証推進委員会との連関が不明瞭であるとの指摘があるため，今後，入試管理委員会での検証結果を同委員会へ定期的に報告する体制の構築を図る。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

博士後期課程における収容定員に対する在籍学生数比率が 0.24 と低く，大学基準協会が定める「基礎要件に係る評価の指針（大学）」に抵触しているため，改善が求められる。くわえて，令和６年度大学評価（認証評価）結果において，「収容定員に対する在籍学生数比率について，生物資源科学研究科博士後期課程で 0.19 と低くなっているため，大学院の定員管理を徹底するよう改善が求められる」との提言が付されているため，定員管理を徹底するよう改善が求められる。

【教務】

博士後期課程の定員管理の徹底は，少子化及び情報発信不足が低充足率の要因であると認識している。

具体的方策として，令和６年度から発足した大学院構想・検討委員会において，将来的な研究科新設の動向及びカリキュラム改正と並行して入学定員及び収容定員の適正化の方向性を検討している。まずは，大学院の受入れ人数を増やすために，その母体となる博士前期課程との接続性を強化し，大学院科目早期履修制度の導入検討を推進する。また，キャリアパスの情報発信強化や特別研究生制度の拡充などの研究環境整備も図る。

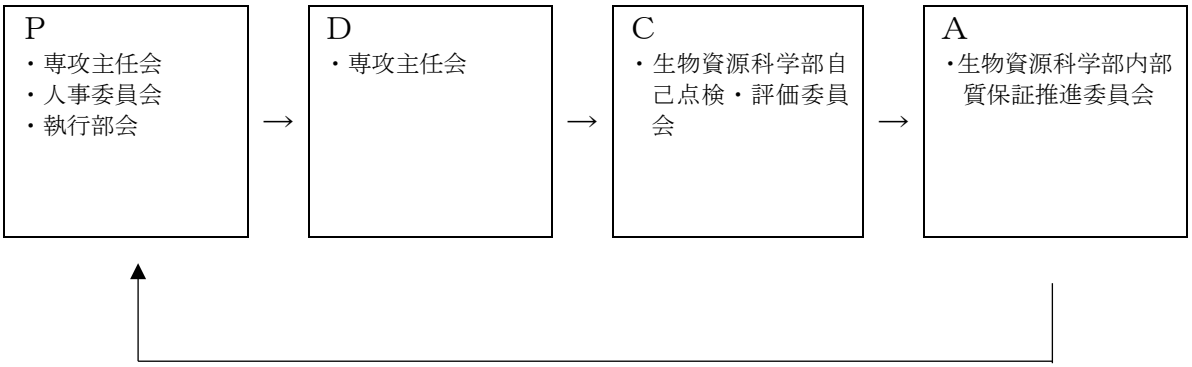
プロセスとしては，入試管理委員会が中心となり，志願動向や充足率の推移を詳細に分析・点検（Ｃ）している。この分析に基づき，同委員会が主体となって広報戦略の強化や収容定員の適正化といった改善策を策定（Ｐ）し，具体的な募集要項の作成や広報活動を実装（Ｄ）している。

これら一連の施策や定員に関する方針については，大学院分科委員会での審議を経て，最終的に研究科長が承認（Ａ）することで，組織的な決定を行っている。

基準６ 教員・教員組織

1　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【庶務】



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

【庶務】

教員の配置については，「大学等の教員配置計画策定に係る基本方針について」及び「教員配置及び教員配置数の上限」を基に，人事委員会にて，点検・評価を行っている。

令和７年度より，大学院研究科担当教員の教育・研究実績等評価体制を整備し，評価を実践する計画である。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

記述上は教職の役割分担と責任の所在が理念的に示されているものの，実際の運用における具体的な成果や改善事例の提示が乏しい点が課題であり，改善が求められる。年齢構成の偏りに対する対応として，具体的な年齢分布の分析や定期的な点検・評価の実施状況，年齢構成に関する中長期的な人事戦略の明文化等については記述が確認できず，今後の改善が求められる。現時点での男女比の具体的な数値や今後の是正に向けた数値目標，又は具体的な改善策につい

ての記述が確認できなかったため，実効性のある多様性確保の取組が行われているかどうかの確認が困難であり，改善が求められる。

【庶務】

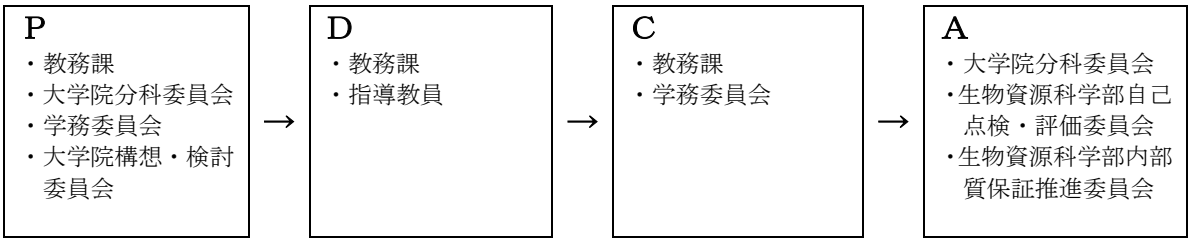
大学院研究科担当教員については，指導資格の有無が重要視されるため，年齢構成の偏りに対する対応及び男女比の具体的な数値目標等については，限られたものになると考えられる。

専攻主任会，人事委員会及び執行部会において横断的に議論を重ねた上，人事委員会により具体的な数値目標及び改善策を策定・協議した後，専攻主任会の審議・決定となる。

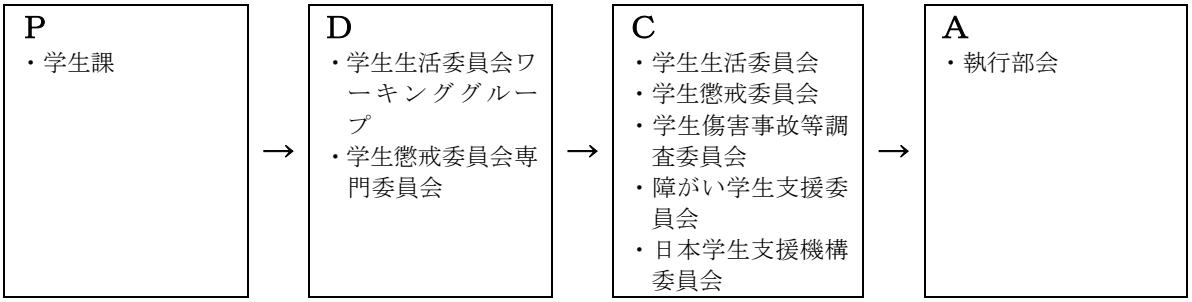
基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

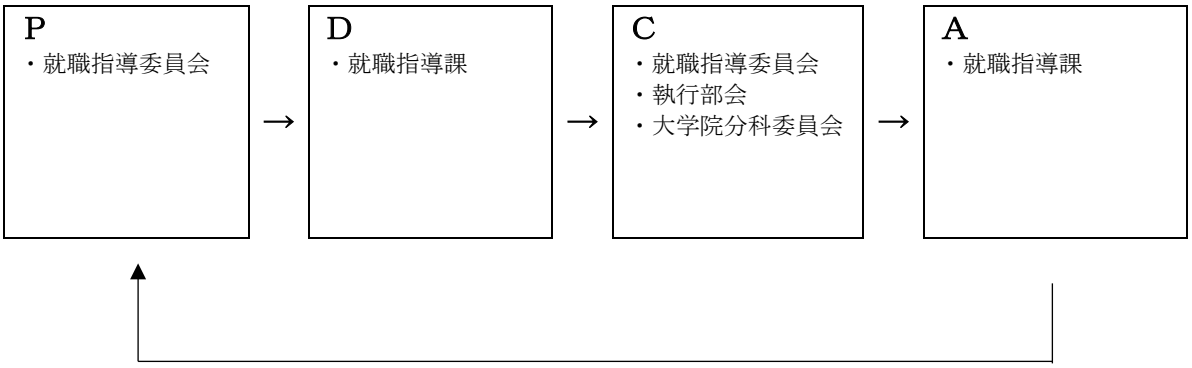
【教務】



【学生】



【就職指導】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

【教務】

＜点検・評価（検証）のプロセス＞

教務課は，留年・休学・退学希望者に対し，指導教員作成の「対応記録」や「休学申出者対応シート」を収集・管理し，学生の修学状況を把握している。これらの修学状況の点検結果を基に，教員と事務が連携した指導の質の検証と改善を図っている。

具体的な運用プロセスとして，まずは教務課及び学務委員会が，収集したデータを基に修学支援の有効性を点検・評価（C）している。この結果を受け，教務課，大学院分科委員会，学務委員会及び大学院構想・検討委員会が連携して改善策を立案（P）し，生物資源科学部自己点検・評価委員会及び生物資源科学部内部質保証推進委員会への報告・承認（A）を経て組織的に決定される。このサイクルに基づき，教務課や指導教員が具体的な個別支援（D）を実践することで，支援の質の継続的な向上を担保している。

＜改善・向上を図った事例＞

学習継続に困難を抱える学生に対し，指導教員と連携し復学までのロードマップ作成などの個別指導を実施している。

また，本部検証所見で課題とされた自律的学習サポートを改善するため，大学院科目早期履修制度の導入を大学院・構想検討委員会等と連携して検討し，修学指導の質の向上につなげる。

＜今後の対応＞

学生支援に関わる点検・評価について，生物資源科学部内部質保証推進委員会との連関が不明瞭であるとの指摘がある。今後は，学務委員会での検証結果を同委員会へ報告する体制の構築を図る。

【学生】

学生担当を学生生活に関わる支援検討する委員会の長として任命し，学生生活委員会，学生懲戒委員会専門委員会，学生傷害事故等調査委員会，障がい学生支援委員会，奨学生選考委員会及び日本学生支援機構委員会を設置し，各支援の検討や情報共有を行っている。

また，各委員会では，学生生活に係る事案について検討を行っている。学生生活委員会では日々起こる学生生活に関する事案を調査・検討している。学生懲戒委員会専門委員会では学生の本分に反する行為を行った学生に対して教育的な指導含めた処分案などを検討している。学生傷害事故等調査委員会では，正課・課外活動などで起きた事故などの内容に関して精査・検証し再発防止を含めた対策などを検討している。奨学生選考委員会や日本学生支援機構委員会では，奨学金に関する申請・推薦などを報告・協議・審議し，手続が正しく行われているか確認を行っている。

障がい学生支援委員会では月曜日から金曜日までの週５日，本部派遣カウンセラーと学部採用の臨床心理士を毎日２名体制で配置し，増加傾向にある学生相談に対応している。また，学生支援室の他に独立した障がい学生支援窓口を設け，社会福祉士の有資格者や日本大学インテーカーの資格取得者をコーディネーターとして配置し，障がい学生支援業務に当たっており，随時，学生からの相談を傾聴し，教員と連携を図り，可能な配慮を模索している。

また，令和７年度日本大学インテーカーの資格研修に当該資格未取得の専任職員３名が参加し，全学生課員がインテーカー資格を取得し，学生相談の業務に当たっている。また，相談で得た内容を学生課内で共有整理し，しかるべき委員会内に議題提案し，学生生活環境整備などを検討している。

【就職指導】

就職指導委員長を筆頭に就職指導課で近年の就職動向を見据え，学生からのアンケート結果を基に行事日程を作成している。また，支援行事案を就職指導委員会で承認した上で，大学院分科委員会後に決裁を取り決定している（支援行事以外も同様)。また，学生の参加状況をみて

次年度以降の検討を行っている。特に開催時期と内容に鑑みて令和６年度ではインターンシップと業界研究を統合した内容で講座を開催していたが，令和７年度では切り離し業界研究を全３回とし，インターンシップガイダンスは６月までに全５回のガイダンスを開催し，採用と直結するインターンシップ対応及び就職活動の早期化に対応をした。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

大学院生の能力に応じて自律的に学習を進められる支援について，方針を含め検討するよう改善が求められる。

【教務】

大学院生の能力に応じた自律的な学習支援についての方針策定が求められたことを踏まえ，その具体的な方策として，大学院科目早期履修制度の導入を推進する。この導入により，意欲ある学部学生が早期に大学院の専門科目を履修することを可能とし，学生の自律的な学習意欲を早期に喚起する仕組みとして機能させる。本研究科では，大学院・構想検討委員会を中心に令和９年度の導入を目指し，制度の設計とカリキュラムとの連携について検討を進める。

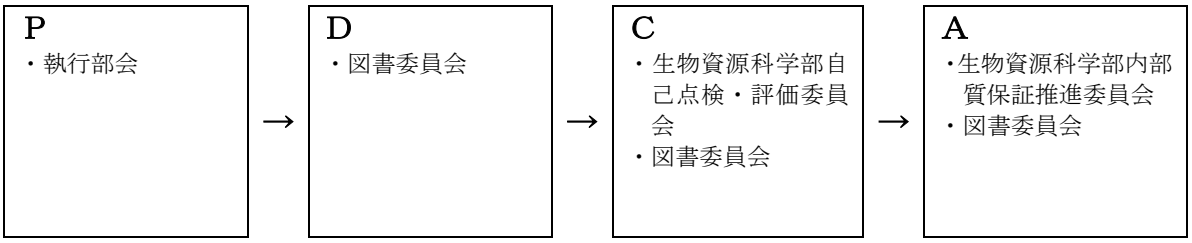
なお，本課題に対する組織的な取組については，まず，教務課，大学院分科委員会，学務委員会及び大学院構想・検討委員会が連携し，早期履修制度の設計やＴＡ（ティーチング・アシスタント）を自律的学習の場として再定義する運用指針を策定（Ｐ）する。これに基づき，教務課及び指導教員が制度の試行や実務的な運用（Ｄ）を担う。

運用状況については，教務課及び学務委員会において，学生の履修動向や教育的効果を点検・評価（Ｃ）する。その検証結果は，大学院分科委員会，生物資源科学部自己点検・評価委員会及び生物資源科学部内部質保証推進委員会への報告・承認（Ａ）を経て，次年度の方針へ反映させる。

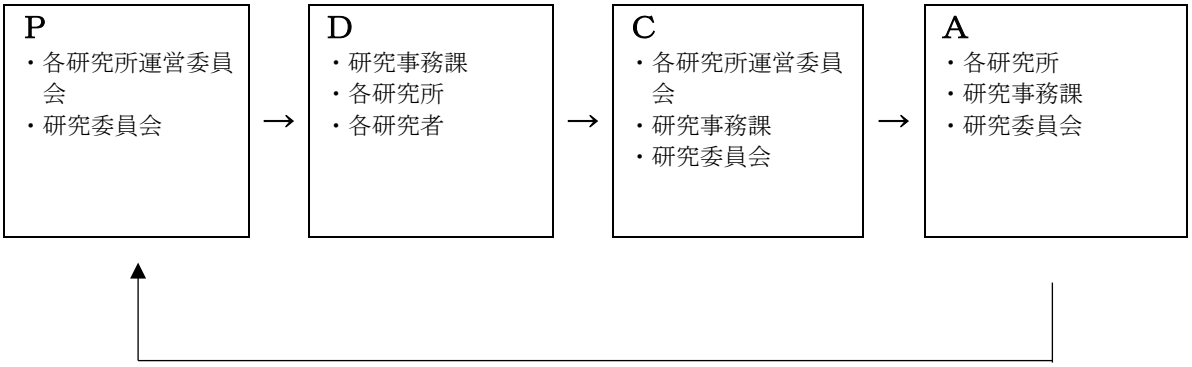
基準８ 教育研究等環境

1　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【図書館】



【研究事務】



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑭　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

【図書館】

計画，実行については，執行部，図書委員会が中心となり，図書館利用促進，電子資料，図書の充実等を進めている。特に利用促進については，図書館ホームページに利用案内と動画「図書館ってどんなトコ！？」を掲載し，日本大学図書館生物資源科学部分館の魅力を周知している。ラーニングコモンズ，グループ学習室の利用者が増加している。また，閑散期においても，各専攻院生が平均して利用している。その利用者数を月ごとに集計し，図書委員会で報告し評価している。図書の充実については，専攻主任に最新の推薦本を紹介してもらい，所蔵本の改善を進めている。

図書館利用促進のために，図書館ホームページに利用案内と動画「図書館ってどんなトコ！？」を掲載し，生物資源科学部分館の魅力を周知している。その結果，ラーニングコモンズ，グループ学習室の利用者が増加している。

【研究事務】

各研究所等では，学部研究委員会を中心として研究組織の適切性を検証するとともに，日々の業務については各研究所等の運営委員会で点検・検証に取り組んでいる。 各研究所等の運営委員会による点検・検証の結果を基に大型機器の購入，保守，点検及び修繕等の計画を検討している。総合研究所では，機器のニーズや点検結果等を基に，毎年大型機器の更新・導入に係るロードマップ（中期計画）を見直し，研究所運営委員会及び研究委員会の承認を得て予算化し，研究環境の改善を行っている。

学部独自の研究費については，その予算配分方法について研究委員会で検討し，各研究者に配分する。各研究者の実績報告や使用上の意見等を基に，研究事務課及び研究委員会で次年度に向けた改善案を検討・策定し，実行している。その他外部資金の獲得や研究成果の公表等，研究委員会や各研究所運営委員会で企画したイベントに参加した研究者の意見を，各研究所や研究委員会及び研究事務課で検討し，次年度の実施案に反映している。

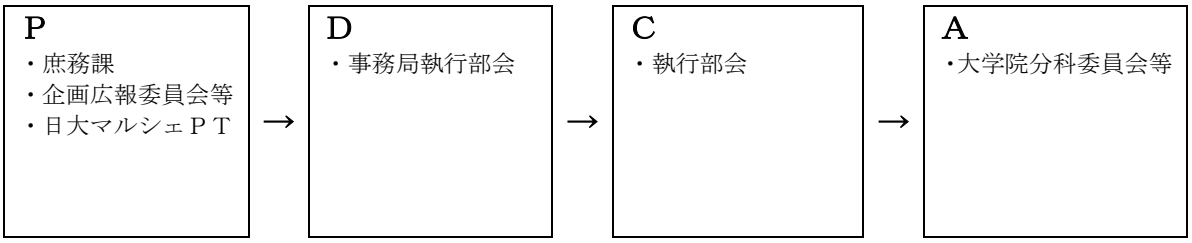
3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

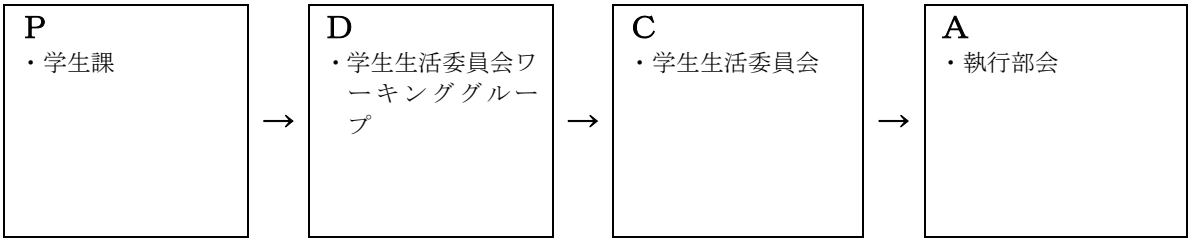
基準９ 社会連携・社会貢献

1　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

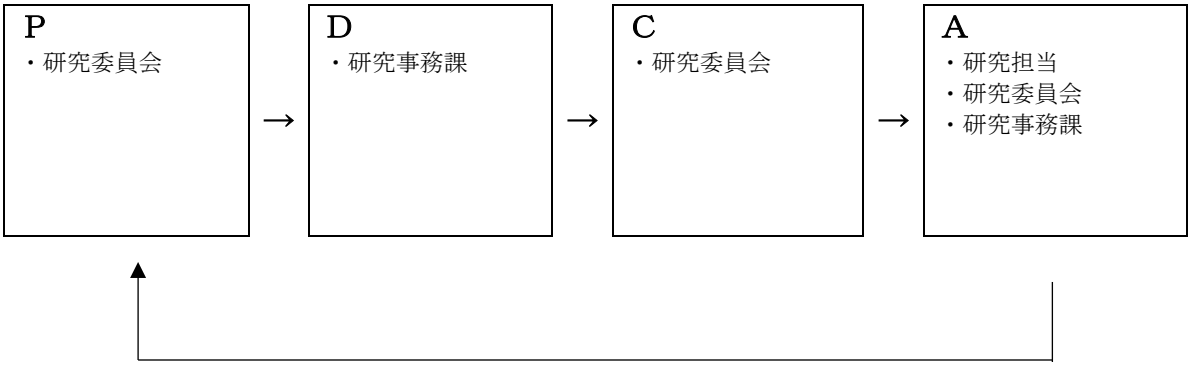
【庶務】



【学生】



【研究事務】



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

【庶務】
社会連携・社会貢献に関わる事項としては，日大マルシェＰＴ，庶務課及び企画広報委員会等で立案した企画について事務局執行部等が点検・評価をしている。事例としては，学部特産品の販売や研究室協力型のワークショップを兼ねた日大マルシェの実施等が挙げられる。今後は，各種委員会等で企画された内容を生物資源科学部内部質保証推進委員会でも共有し，学部全体として連携しながら取り組むことで，より高い相乗効果が期待できる組織作りを目指す。

【学生】
行政等からの依頼に対し，学生団体（学部祭実行委員会，学生団体連盟など）から地域貢献（ボランティア活動）の一環として，学生派遣を行っている。ただし，点検・評価（検討・検証）の実施はしていない。

【研究事務】
社会連携・社会貢献については，研究委員会を中心に社会連携・社会貢献の度合い等を検証している。毎年，藤沢市と連携し市民講座を開講しているが，受講者のアンケートを参考に，市民のニーズに応えるとともに，また一般市民や中高生に大学の研究成果を分かりやすく発表できるよう検討している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし